

モーターパラグライダー体験タンデムフライトに関する注意喚起

補助動力委員会/安全性委員会 2022. 6. 9

- 1、モーターパラグライダー体験タンデムフライトを行う場合には、安全管理規程を作成し、ルールに従ってフライトしましょう。
(例) 1)安全管理規程、エアリアルール、加入保険の種類と状況などを、スクール経営者、または責任者はタンデムパイロットへ伝える。
2) 気象情報、日没時間、タンデム人数、パッセンジャー特有の情報の共有など飛行前にブリーフィングを実施する。
3) 一日のフライト終了後のデブリーフィング(ヒヤリハット、注意することなどを皆と意見交換を行う)を実施する。
- 2、気象コンディションにリスクある場合には、無理なフライトをしないようにしましょう。
- 3、テイクオフの際にラインの絡み等がないか、必ず目視チェックを行いダブルチェックを行うこと。もし、チェック不十分なままテイクオフをしてしまった場合は、できる限り速やかに着陸をすること。その際に取る動作は、「急」を避けて穏やかに操作をしましょう。
- 4、タンデムを含めてフライトする際は、技能証規程に応じた技能証を取得してから行うようにしましょう。
- 5、フライト内容に応じた適切な保険に加入した上でフライトを行いましょう。
(業として行うタンデムフライトにはフライヤー会員の第三者賠償責任保険は適用されません。)

(事故報告)

本年 5 月 9 日に発生したモーターパラグライダータンデムの事故について

「離陸直後に左翼端にラインが絡んでいる事に気づき、上空でポンピングによる回復を試みるも回復しなかった。ラインが絡んでいる側にターンして離陸地点まで戻って着陸しようとしたところ、フラットスピンを起こして約 10 メートルの高度から墜落となった。」

パイロット本人からの聞き取りをもとに事故の再発を防止するため情報共有します。身近に起こりうる実例として注意を心がけてください。

以上